

ジャガイモシストセンチュウの根絶を目指した防除技術の開発と
防除モデルの策定

研究期間	平成 24 年度～平成 26 年度
課題番号	2407
研究実施機関	(独)農業・食品産業技術総合研究機構(北海道農業研究センター) (大)北海道大学 (地独)北海道立総合研究機構 長崎県 雪印種苗(株)
研究概要	馬鈴しょ等ナス科作物の重要害虫であるジャガイモシストセンチュウは、環境耐性等があるため、既存の防除技術では発生密度の低下は図れるものの、根絶は困難な状況となっています。このため、発生地域の拡大防止及び根絶技術の開発が喫緊の課題となっています。 そこで、ジャガイモシストセンチュウの防除効果が高い技術を開発し、既存の防除技術と組み合わせ、根絶を目指した防除モデルを策定するための研究を実施するとともに、ジャガイモシストセンチュウを高感度に検出するための技術を開発し、根絶を確認するための手法を構築するための研究を実施しました。
研究成果の概要	センチュウの発生ほ場において、トマト野生種又はハリナスビを休閒緑肥として栽培することにより、ほ場内のセンチュウ密度を 20%以下に、また、センチュウ抵抗性品種連作と非寄主作物を組み合わせた輪作を実施することにより、土壌から次世代の線虫の増殖が確認されない程度にまで、センチュウ密度を低減できることを実証し、今後、根絶に向けた防除のモデルとして発生地域における防除への活用が見込まれます。 また、線虫の検出方法に関して、労力が軽減できる土壌のサンプリング法や、ふ化促進物質法とカップ検診法を組み合わせ高精度に生存線虫を検出する方法等、根絶確認に資する技術を開発します。

(注) 研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載